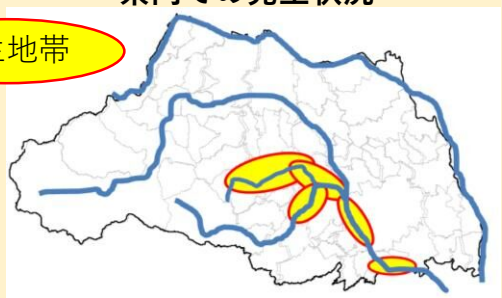
彩の国
埼玉県

拡散させないで！

ナガエツルノゲイトウ

県内でナガエツルノゲイトウの発生が確認されています。
水田内や畦畔に定着すると駆除が困難です。
また、茎の断片からも発根して定着するため、発生場所で草刈りを行うと拡散します。
早期発見に努め、適切な防除を実施しましょう。

県内での発生状況



ナガエツルノゲイトウを発見した場合は、裏面の問合せ先に御連絡ください。

ナガエツルノゲイトウについて

- 南米原産のヒユ科の多年草
- 水草で水に浮き、河川等から水路、水田などに侵入
- 茎の節から発根する。茎がちぎれやすく、断片が増殖源となる
- 乾燥に強く、畑地などにも侵入する
- 特定外来生物で、生きた個体の運搬等は原則禁止



ナガエツルノゲイトウの見分け方

【葉】節から１対の葉がつく、葉の先がややとがる
【茎】茎は空洞（ストロー状）、節に短い毛が生える、茎の表面はなめらか
【花】白く、小さい花が球状に咲く、花柄は葉のわきから伸び、長さは１～４㎝



葉の形状＊1



茎の断面＊1



花の様子



地下部の断面＊1

間違えやすい植物

ツルノゲイトウ *1



- 球状花は葉の脇に着生し、柄が無い
- 花のない時期は見分けが困難

アメリカタカサブロウ ＊2



- 葉の鋸歯（緑のギザギザ）は明瞭
- 花は球状でなく平たい

タカサブロウ *2



- 葉の鋸歯（緑のギザギザ）は明瞭
- 花は球状でなく平たい

スベリヒユ *2



- 葉の先は丸い
- 葉は互生（交互につく）
- 花は黄色

シロツメクサ



- 葉は３小葉
- 葉に白い紋
- 球状花の直径は2cm

＊チラシに掲載されている写真は次の機関からの提供です。＊１農研機構　＊２環境省

ナガエツルノゲイトウ発生時の防除方法



- 断片から拡散する恐れがあるため、刈払機の使用は避けましょう。
- 使用基準に従って除草剤を使用します。
- 抜き取ったら厚手のゴミ袋やポリ袋等で密閉し、散逸させない場所で枯らすか、焼却処分します※。
- 水田内への侵入防止のため、給水口に４㎜目合のネットを取り付けます。

※　特定外来生物に指定されているため、栽培・運搬等は禁じられていますが、小規模な防除の場合、防除目的の運搬は事前に防除の内容等を公表すれば可能（農業を営むに当たって行う防除の場合の公表は不要）。

早期・早植栽培における防除体系の例

	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
水稲の生育			田植		中干し		出穂期		収穫期			
ナガエツルノゲイトウの生育			萌芽・出芽	←	開花期		→	生育停止	地上部枯死	秋耕直後から土中萌芽開始（～3月）		

本田防除（化学的防除）

防除時期	初中期	中後期	収穫後防除
薬剤例	・ピラクロニル含有剤	・フロルピラウキシフェンベンジル含有剤	・グリホサート含有剤
目　的	・水稲用除草剤による化学的防除 ・本田初期防除	・畦畔からの侵入抑制	・地下茎の肥大抑制 ・地下茎へ除草成分を送り込む
注意点	・深水処理	・収穫前日数	・稲刈後なるべく再生させる ・初霜の１～２週間前までに防除

本田防除（耕種的防除）

防除時期	防除時期①	防除時期②	防除時期③
対策例	・低速高回転で耕うん ・農機付着土壌の除去	・4㎜目合ネットで捕集 ・農機付着土壌の除去	・荒起こし ・農機付着土壌の除去
目　的	・再生力低下	・侵入、持出対策	・低温乾燥で地下茎を枯死
注意点	・農機（土壌）で拡散	・用排水で拡散 ・農機（土壌）で拡散	・土壌の表面積を大きくする ・農機（土壌）で拡散

畦畔防除

防除時期	防除時期①	防除時期②	防除時期③
薬剤例	・カソロン粒剤4.5	・グリホサート含有剤以外	・グリホサート含有剤
目　的	・土壌処理による長期残効	・地下部の生育量抑制 ・再生株の養分を消耗させる	・地下茎の肥大抑制 ・地下茎へ除草成分を送り込む
注意点	・雑草発生前～発生始期	・抵抗性雑草発現抑制	・降霜による枯死前に防除

使用可能な薬剤の例

（令和６年６月１日現在の登録情報）
・最新の登録情報は右から確認ください　農薬登録情報提供システム https://pesticide.maff.go.jp/
・農薬はラベルに記載の適用作物、使用時期、使用方法を十分確認の上、最終有効年月までに使用してください。

場所	時期	本草に有効な成分（一部を記載）	左の成分を含む薬剤名	希釈倍数・使用量	使用回数
本田	初中期一発剤	**ピラクロニル ※2**	バッチリLX1キロ粒剤	1kg/10a	1回
		ピラクロニル ※2	アッパレZ400FG	400g/10a	1回
	中期剤	**フロルピラウキシフェンベンジル ※2**	ウィードコア1キロ粒剤	1kg/10a	2回以内
	後期剤	**フロルピラウキシフェンベンジル ※2**	ロイヤント乳剤	200mL/10a	2回以内
	収穫後（9～10月）	**グリホサートカリウム塩 ※2**	ラウンドアップマックスロード※1	500～1000mL/10a	1回
畦畔	3～4月	DBN	カソロン粒剤4.5	6～12kg/10a	1回
	田植以降	**フロルピラウキシフェンベンジル ※2**	ロイヤント乳剤	200mL/10a	2回以内
		グルホシネートPナトリウム塩	ザクサ液剤	500～1000mL/10a	2回以内
		グリホサートカリウム塩 ※2	ラウンドアップマックスロード※1	200～1000mL/10a	3回以内

※1　畦畔のラウンドアップマックスロードは3回のうち、水稲生育中は1回とし、9～10月の本田の収穫後防除に1回残しておく。
※2　成分が同じ薬剤は使用回数に注意する。

❣注意❣　河川敷や水路など水系に流出する恐れがある場所では、薬剤は使用できません！

【お問合せ先】
発生、防除については、下記または最寄りの農林振興センターに御連絡ください。
〇埼玉県農産物安全課　048-830-4053　　〇埼玉県病害虫防除所　048-539-0661

令和６年６月作成